

第八届亚太翻译论坛 8th Asia-Pacific Translation and Interpreting Forum 報告

平塚ゆかり
(順天堂大学)

第 8 回アジア大洋州翻訳フォーラム(通称:APTIF)は「亚太地区翻译的明天(Translation and Interpreting in Tomorrow's Asia-Pacific Region)」をテーマに、2016 年 6 月 17-18 日に中国西安で開催された。APTIF は、これまで「アジア翻訳家フォーラム」の名称を用いて、アジア地域における通訳翻訳学界の学術プラットフォームとして、3 年ごとにアジアの国・地域が一堂に会し、会議を主催してきた。初回のフォーラムは、1995 年に北京で行われ、その後、韓国、香港、インドネシア、マレーシアなどで開催されているが、残念ながらこれまで日本では開催されていない。2015 年 3 月に国際翻訳家連盟(FIT)理事会の承認を経て、上述の名称に変更した。

今回のフォーラムは国際翻訳家連盟(International Federation of Translators, 通称:FIT)、中国翻訳協会(Translators Association of China,通称:TAC)および西安外国語大学による共同主催により、古都長安の大雁塔を臨む曲江惠賓苑賓館、西安外国語大学を会場に執り行われた。

6 月 17 日、1 日目の午前中は開幕式に続き、国内外からの来賓による講演が行われた。その後、「翻译人才发展高峰论坛(Professional Development for Translators and Interpreters)」と題した全体会議が行われた。1 日目の午後、2 日目の午前中に 4 つのラウンドテーブル会議、4 つの特別セッション、21 の分科会がホテルの会議場すべてを使って行われた。分科会は 4 つのテーマ「通訳翻訳業界の動向と課題」「通訳翻訳研究と実践」「通訳翻訳人材育成」「通訳翻訳と異文化コミュニケーション」に基づき、より具体的なサブテーマに分かれて発表および議論が行われた。そのほか、ポスター発表も行われたが、こちらはアブストラクトのみの展示だった。また 2 日目の午後は、場所を西安外国語大学の長安キャンパスに移動し、全体会議および閉幕式が挙行された後、キャンパス内にある大学の通訳翻訳訓練センターと国家プロジェクトとして設立された言語サービスセンター「絲綢之路語言服務協同創新中心」の施設見学を行い、最後に「長安の夏」と題した中国舞踊、歌曲などのプログラムが催された。

会議の使用言語は中国語と英語であったが、開幕式、来賓講演、全体会議、閉幕式、そのほかメイン会場での分科会は、同時通訳サービスの提供があり、外交学院修了のプロ通訳者が同時通訳を行った。

HIRATSUKA Yukari, "Report on the 8th Asia-Pacific Translation and Interpreting Forum," *Invitation to Interpreting and Translation Studies*, No.16, 2016. pages 166-169. © by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies

(具体的なセッションテーマ、発表者および所属、発表題目などは以下の中国翻訳協会ウェブサイト参照されたい。<http://www.tac-online.org.cn/aptif8/index.html>)

下記に所感を述べたい。

今回の会議のキーワードは、「一帯一路 (One Belt and One Road)」であった。「一帯一路」とは、中国共産党の習近平総書記が 2013 年に提唱した、陸上、海上のシルクロード経済ベルトのことであり、21 世紀における中国の新たな経済協力のコンセプトである。全体会議での中国人講演者は、ほぼ全員がこのキーワードに言及し、その実現を目指す故に、通訳翻訳界の進展が重要である、との共通認識が随所にあられていた。

それ故、今回のフォーラムは中国外文局、陝西省人民政府が、主催団体を支える後援組織として強力にバックアップするなか行われた。開会初頭からそれを如実に示したのが、開幕式での来賓挨拶である。中国共産党中央宣伝部の景俊海副部長(副大臣)、中国翻訳協会会長兼中国外文局の周明偉局長(欠席によりスピーチ代読)、陝西省の莊長興副省长、国際翻訳家連盟の Henry Liu 主席、中国人民対外友好協会の戸思社副会長、西安外国語大学の王軍哲学長と、そうそうたる顔ぶれであった。中国翻訳協会の公式発表によれば、今回の会議参加者は 30 カ国 500 名ほどのことだったが、この開幕式には、研究者、教員など本来の参加者以外にも、全国のメディア業界が取材に訪れており、同時通訳レシーバーはおろか、会議場の座席さえ足りなくなるほどであった。

中国共産党中央宣伝部の景俊海副部長は、「中国は一帯一路の実現に向けて各国の政策に通じ、貿易、資金、民心などに通じ、円滑化を図っていかねばならないが、重要な点は言語に通じていくことである」としたうえで、「通訳翻訳は異言語、異文化間の障害を取り除き、情報を的確に即座に広く伝え、相互交流を促進する重要な役割を果たすものである」と語った。その上で、アジア大洋州通訳翻訳業界に求めるものとして、「全体の局面の把握と相互信頼関係の構築」「相反するものも受容し、時代のニーズを考慮」「規範化の促進、システム完備、秩序ある業界の構築」「交流促進により、ウインウインの関係を構築」の 4 点を挙げた。

また、主賓講演者の一人である北京語言大学共産党委員会書記の李宇明氏は「言語サービスと言語産業」と題して講演した。李氏によると、2011 年時点ですでに中国の言語サービス業者(主として翻訳通訳サービス関連会社)は 4 万社近くに上っており、取扱総額は 1576 億人民元(1人民元は約 16 円)とのことであった。また、「言語サービスへの取り組みは社会の成長を反映するもので、言語サービスは巨大な経済効果を生むものである。現代社会のニーズに照らして、学校、社会全体でより一層言語サービス従事者育成への取り組みが必要」との見解を示し、通訳翻訳産業は、経済を活発にするために重要な役割を果たしていることが報告された。

分科会では、「翻訳規範」「言語サービスと地域の発展」「異文化コミュニケーションにおける通訳翻訳の実践」「翻訳者認証制度」「新たな技術と通訳翻訳人材育成」など、内容は多岐に渡るものだった。個人的に最も興味深いセッションは、中国が 2007 年より導入している「通訳翻訳修士 (MTI) コースの運営方法、教学モデルに関する研究」分科会であった。MTI コー

すは 2007 年当初は 15 の大学にしか設置されていなかったが、2016 年現在はずでに 200 校以上の大学がコースを設けている。数字だけを見れば、9 年あまりで通訳翻訳教育が急速に進展しているかに感じるが、その反面、近年では MTI の現状に現場から問題提起がなされている。復旦大学教授である何剛強は、広東外語外貿大学の仲偉合学長がかつて言及した 7 つの問題点、すなわち人材育成の理念不在、コース担当教員の不足などが現実化していることに触れ、MTI の今後のあり方について、ここ 3 年は大学への新規設置認可は見直し、調査の上で縮小する方向に向かうべき等、8 つの改善点を挙げている(何, 2016)。

セッションでは多くの大学が課題を抱えており、その対応を現在進行形で行っていることが理解できる内容であった。北京、上海、広東、西安などの大都市における大学では、学部入学から MTI コース進学、修了まで、充実したコース運営がなされている一方で、地方都市大学からの参加者からは「少人数でいかにコース運営を行うか」「いかに有効な教材を提供するか」との、危機感溢れる質問が多く出され、広東外語外貿大学、北京語言大学における通訳翻訳訓練モデルや教材コンテンツなどの実践的な発表に真剣に向き合い、活発な質疑応答がなされていた。また、今回は英語-中国語間の通訳翻訳コースに関する発表が主であったが、セッション終了後、北京語言大学で日中通訳コースを担当されている吳珺副教授との出会いがあったことは何よりの幸いであった。後日単独で北京語言大学を訪問し、施設見学、日中通訳コースの運営、修了生の進路など、有益な話を伺うことができた。これは稿を改め報告する予定である。近い将来、日中間の通訳翻訳コースに関して、今回のセッション同様、活発な議論が展開できるようになることを望まずにはいられない。

中国における、国を挙げての通訳翻訳業界へのバックアップには目を見張るものがある。今回のフォーラムはほんの一例であろう。国の事情は異なるものの、日本の我々も中国の通訳翻訳業界の現状を知り、中国に学ばねばならない時代であることを痛感した。

今回のアジア大洋州翻訳フォーラムでは執行委員会が設置され、執行委員が 5 名選出されたが、日本から委員が選出されなかったことは大変に残念であった。2 日目の夕食時に、日本からの参加者である山田優理事とともに、今回の主催者団体である国際翻訳家連盟(FIT)の Henry Liu 主席、中国翻訳協会(TAC)の王剛毅常務副会長と偶然同席し、懇談する機会に恵まれた。Liu 主席からは「世界の通訳翻訳学界においてアジアの大国の一つである日本が、より積極的に行動する必要がある」と直に指摘を受けた。フォーラム自体、日本からの参加者は 3 名のみという状況であった。日本の通訳翻訳研究者は、今後は中国をはじめとするアジア各国の通訳翻訳学界に積極的に「走出去(打って出ていく)」していくべきであろう。また、中国では通訳翻訳関連学術誌も『中国翻訳』『東方翻訳』『上海翻訳』『科技翻訳』など多種発刊されており、大半は隔月刊行である。投稿論文は主に中国語論文であるが、中には英語でも投稿が可能なものがあるため、今後は会員諸氏の研究成果をこれらの学術誌へ投稿・発表して頂けるよう切に願うものである。

また、今回 2 日目に行われた閉幕式では、6 月 18 日の当日朝、不慮の事故により逝去された元外交部スポークスマン、中国駐フランス大使、外交学院院長を歴任された吳建民氏に黙祷が捧げられ、氏の翻訳通訳学界に対する功績を偲んだ。吳建民氏は 2008 年に上海で行

われた FIT 大会でも主賓として講演されている。異文化コミュニケーション的視座から語られる氏のスピーチには、示唆に富むことばがちりばめられており、筆者も日中通訳コースの教材として、これまで幾度となく利用させて頂いていた。あまりにも早すぎる逝去であった。心よりご冥福を祈りたい。

尚、次回(第9回)の APTIF は 2019 年韓国ソウルで開催される予定である。

.....

【著者紹介】

平塚ゆかり(HIRATSUKA Yukari) 順天堂大学国際教養学部助教。大東文化大学外国語学部中国語学科兼任講師。中国語通訳者。立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士後期課程修了。博士(異文化コミュニケーション学)。専門は中国の通訳・翻訳論、オーラルヒストリー研究。

.....

【参考文献】

何剛強(2016)「“四重忧患”伴“三关失守”——我国翻译专业研究生教育何去何从？」『上海翻译』1-5 頁 上海市科技翻译学会